



甲冑武者たちの情熱が 「道明寺の戦い」の魅力なんです



鬼小十郎まつり実行委員会
道明寺部会長 佐藤由佳さん

鬼小十郎まつりのメインイベント「大坂夏の陣」道明寺の戦い」は、白石城主二代片倉小十郎重長率いる片倉隊と、真田幸村率いる真田隊が戦った史実をモチーフにつくりました。

第1回目当時は、まだ台本や段取りが拙く、甲冑や忍者服などはすべて貸衣装だったり、音源もほとんどが自作だったり、裏方も手探り状態のなかで進んでいきました。このときの甲冑武者は、ほとんどが知人や市職員の方でしたね。当日は皆さんに会場でもらえるか、満足してもらえる演技を見せることができるか、とても不安でしたが、多くの観客の方々に来ていただき、完成度の高い演技でたくさんのお褒めの言葉をいただきました。

戦いの始まりをみる

鬼小十郎まつりのメインイベント「大坂夏の陣」道明寺の戦い」は、白石城主二代片倉小十郎重長率いる片倉隊と、真田幸村率いる真田隊が戦った史実をモチーフにつくりました。

「鬼小十郎まつり」はきっかけのひとつ 世界中の人が訪れるまちを目指しています



鬼小十郎まつり実行委員会
委員長 森建人さん

発足当時を振り返って

平成20年に第1回鬼小十郎まつりを開催し、今年で10回目を迎えます。発足から携わってきた身として、感慨深いものがありますね。当時は、全国で戦国武将ブーム・歴史ブームに火が付き、戦国武将縁の地が注目を集めていました。白石にも伊達政宗の忠臣「片倉小十郎」を目的に、多くの方が訪れていることが分かりました。これは白石を盛り上げる絶好のチャンスだと思い「白石城主片倉小十郎によるまちづくり実行委員会」を立ち上げました。そのなかで生まれたのが「鬼小十郎まつり」です。

戦国武将のイベントは全国にくつもありませんでしたが、固定概念にとらわれない、他では体験できない斬新なおまつりをつくらうと動き出しました。

白石を楽しんでもらうために

白石のおまつりは市民向けのものが多く、市外や県外の人をターゲットにしたものが少なかったと思います。「鬼小十郎まつり」で訪れた方々に白石のまちなみを歩いてもいい、買い物し食事し温泉でゆっくりして、白石を堪能してもらいたい。その方々にリピーターになってもらい、家族や友人など多くの方を連れてきてもらう。そして白石全体が観光地としての商売ができるようになることを、ずっと考えていました。

しかし、当初は白石城に来ていただいた方々に、まちなかを堪能してもらうことができないでいました。盛り上がる白石城と、手が回らないまちなかのギャップを痛感せざるを得ませんでした。

開催を重ねながら、すまいるひろばでもイベントを開催しそこに新店でもあったり、スタンプラリーや甲冑武者行列、レンタル着物や人力車などを行い、白石城とまちなかの一体感ができてきました。10回目の今年は、より楽しんでもらえるよう準備しています。

鬼小十郎まつりはまちづくりのきっかけのひとつに過ぎません。ゆくゆくは白石全体がウエルカムなまちになり、全国全世界から多くの人が訪れるまちになることを目指しています。

情熱が戦いをつくりあげる

「道明寺の戦い」は、参加者約120人全員が情熱をもって取り組んでくれています。特に熱いのはエキストラ60人が演じる甲冑武者ですね。

エキストラは60人限定で募集し、全国各地から来ていただいています。交通費も宿泊費も全て自腹で、本番まで3回の練習会も参加必須なんです。実はリピーターがとても多いんです。本当に好きで集まってくれている方々なので、そりゃあ気合は格段に違いますよ。女性も多いのですが、戦う時は男性が負けてしまいそうなほどの猛者たちです。

毎年遠くから参加してもらっているのは、「道明寺の戦い」が参加者全員でつくりあげるスタンスを崩していないからだと思います。自分の殺陣を自由に演出したり、「こう動いたらどうだろう」と提案したりしてもらっていることもあります。一昨年から取り入れた「槍衾」も、そういった声の一つをヒントにさせてもらいました。参加者の情熱が「道明寺の戦い」の歴史であり、魅力なんです。私たち裏方も、みんなの熱量に負けないくらいの情熱で毎年臨んでいます。今年も全員一丸となって、感動と熱意が伝わる「道明寺の戦い」をつくりあげていきます。白石城で繰り広げられる激闘を、ぜひお楽しみください！

